

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	株式会社 加治川の里 グループホームつきおか
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	新発田市本田丁1466番地7
記入者名 (管理者)	後藤 洋子 (大友 美加)
記入日	平成 20年 3月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	福祉をもって地域に貢献という会社の経営理念をもとに、地域の一体化に取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット毎に経営理念に基づいた独自の対偶方針を定め実施している。		職員に処遇方針をもっと徹底して具体化し説明して具体化し説明していきたい。今後も採用時、理念、処遇方針を説明していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関入り口の見やすい所に、経営理念を掲示している。ホーム便り、面会時説明をこころがけている。		運営推進会議等を利用し、今後も継続して、理念の説明をこころがける。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買物に出掛け近隣の方達と挨拶を交わしたり、話しかけを多く持っている。看板設置が実現し交流のきっかけが出来た。		職員は必ず近所の人に、こちらから挨拶する事を行っている。お茶飲みの声掛け等、今後も積極的に努めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りや新年会等には参加しているが、まだまだ地域活動の参加は少ない為、今後の課題とし取り組んでいきたい。		ボランティアの慰問等はあるが、こちらから地域の一員として参加していない為、今後区長さん等を通し地域活動の参加を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在、地域住民を対処に認知症の理解や接し方の勉強会等に行っていない。地域の方々から認知症相談等の受付が実施している。</p>		<p>グループホームの生活、ケアの実践等を地域の方々に公開していきたい。又、実習生の受入れも積極的に行っていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は全職員に目的等伝え全員で自己評価に取り組んでいる。又、前回の評価結果等を全職員で確認し、改善、実践に繋げている。</p>		<p>年1回の外部評価をもとに、今後も事業所の質の確保の為に評価を活かして改善点等は実践につなげ質の向上に努めていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>1回/2M運営推進会議を行っている。地域の方々もまだGHを理解していない方もいる為、運営推進会議等でGHの現状等を伝え理解に努め意見や質問をもらうようにしている。</p>		<p>今後幅広い立場の人達の参加を呼びかけていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市に疑問な点について相談し、アドバイスを頂いている入居者のサービスの向上の為に市と密接に関わりを持つように努めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護制度について理解出来ている。必要な方には、制度利用につながっている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で、業務中に虐待が起きない様、職員相互の見守り、声掛けを行っている。</p>		<p>職員のストレスを溜めない様、定期的な会議を開催する。又、高齢者虐待防止関連法について定期的に話し合う場を設けていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族の方は不安や疑問が沢山ある為契約時、十分な説明を行い同意を得るようにしている。解約時もトラブルになった事はない。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>思いや、意見を上手に表す事が出来ない入居者であっても表情等を観察しながら察する努力をしている。又不満等の訴えのある方は意見を聞き会議の場で話し合っている。</p>		<p>今後も利用者本意の運営を心がけていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当職員が家族に最近の入居者の状況等を手紙にし郵送している。又、面会時は外出時の写真を見て頂いたりしている。ホーム便りなどで職員の異動報告を行っている。毎月金銭の管理を報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時には職員疑問、不安、ご意見を頂ける様に話し掛けを行っている。家族同士の話し合いの機会はあまりない様に思える。</p>		<p>今後、家族会を設けていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の職員会議に発言の機会を設けている。日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけたり、聞き出したりしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況により、必要な職員を確保する様努めている。職員も協力的に対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本社より異動命令が最近多かったが、なるべく各ユニットの職員を固定化し家族の一員になれる様努めている。管理者は本社会議で問題を提起している。</p>		<p>利用者と職員の馴染みの関係を継続できる様にしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年に比べ研修に出る機会が増えた。法人内での他のGHと共同で内部研修を今年度から行う方針である。		今後、職員全体が、事業所外で開催される研修になるべく受講出来る体制を整える。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は個人的な同業者とのつながりはあるが、ネットワークづくりまでには至っていない。法人内での研修による向上を今年度から図っていく。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を設置し職員間の隔和を図っている。		グループホーム内職員は温和でトラブルはない。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来られ、勤務状況や職員の実態を把握している様に思える。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至る初期段階での本人参加をすすめている。本人からの聞き取り、十分な説明に時間をさき、本人が信頼して下ってから入所契約が最適と心がけている。		家族の意向により、本人の意にそぐわない入所も多いがなるべく本人の意思を尊重して話しを聞いていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認している。十分話し合った上での契約を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、契約すべきかどうか他のサービス利用の必要性を考慮して対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に事業所への見学をしてもらう事から始め初期の入所者には個々のケアを十分に行っている。短時間のデイサービスの利用から徐々に時間を伸ばす試みも行ない梓にはまらない工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に過ごし学び、支えあう関係が出来ていると思う。調理、縫い物、畑仕事等一緒に行い、職員が学ぶ姿勢で接遇している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報の共有に努め、職員と家族等で利用者を支えていけるようお願いしている。受診時等も出来る限り同行お願いしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出等で一緒に過ごして頂いたり行事に家族を誘ったりしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先で知人に会ったりした時などは、訪ねて来て頂いたりしている。又、家族と共に行きつけの美容院に行ったり継続的な交流が出来るよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ほぼ日中は居室で過ごす事無く、ほぼりピングで過ごすことが多い。職員がはし渡しをしたりし利用者同士が楽しく関わられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院してしまった方は、退居後でも見舞いに行なったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一のゆっくりした対話、日々の関わりの中で声を掛けながら把握し努めている。訴えが難しい方などは家族から情報を頂いている。		今後もその人らしい生活が送れるよう個別ケアに心がけていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報を収集し、馴染みのある暮らしに近い環境作りを行なっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時に家族より1日の過ごし方を聞いている。一人ひとりの生活リズムを把握してできる事のケアに目をむけ現状の把握に努めている。日々記録に残し全職員で把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者だけの目で見えたプランにならない様、家族、本人の意向を聞きながら作成している。又、職員でカンファレンスを行ないながら全員で取組んでいる。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時等は担当者会議を開催し介護計画の見直し、作成を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、生活記録を記入し職員全員で情報の共有が出来る様になっている。又、生活記録の中にケアの実践、結果等を記入し介護計画に反映するようにしている。		介護計画に沿っての記入が内容等詳しく記入されていない為、今後の課題としていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応可能な事等は協力して頂いているが、通院等は出来る限りGHで対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回避難訓練を行い消防の方達等とも連携を図っている。又、外部のボランティアの受入れ等も呼びかけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必然性に応じて、訪問理美容を利用したりしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で地域包括とつながりを持てるようになったが、今までに特に協働した事実はない。		今後地域包括との情報交換等をまめにし、協力関係が築ける様にする。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続している方がほとんどである。又、受診は職員同行で行なっているが、状態変化時等は家族も同席を行なっている。又、協力医とも連携を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳外科や精神科への受診となっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は配置されていない為、協力医に医療面での指示を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は見舞いに行ったり家族と情報交換を行なっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、本人の意向を十分聞きながら協力医との連携が図れるよう努めている。終末期に向けた方針を全員で共有しケアにあたっている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームの職員が出来る事、家族が出来る事等を十分説明するようにし、本人にとって安心して納得のいく最期が迎えられるよう、医療との連携を図って支援したケースもあった。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	やむ得なく退居に至った場合は情報提供を行い、連携に心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の尊厳について会議の場で繰り返し話し合っている。個人情報の取扱い等も、管理者から説明を受けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食べたいものを利用者に聞き一緒に買物に行ったり散歩に行ったり外食等も取り入れながら利用者が自分で決める場面をつくれている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れはあるが個別対応になるべく取組む様支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧やおしゃれを心掛け外出したりしている。又、毎朝の整容等にも気をつけている。理美容等の出張サービスの他いきつけの美容室に行ったりしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と共に準備や調理等行いながら楽しい食事作り、食事が出来ている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>家族、本人の希望を聞きながら、夕方お酒を飲んで頂いたり、タバコ等も付き添いのもと吸って頂いたりしている。おやつ等も一緒に買物に行ったり好きな物を食べて頂いている。夏等はノーアルコールビール等も飲みたい方に提供している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを活用しながらトイレ誘導を行ったり尿意のない方でも定時の誘導でトイレで排泄できる様支援している。入所当時、リハビリパンツだった方もパンツ+バットで過ごせる方が増えている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入所当初から毎日入浴を行っていた為、習慣化され利用者が入浴を楽しみに待っている方が増えた。抵抗・拒否等もない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動を促し夜間良眠出来る様努めている。利用者の状態を見ながら昼寝をして頂いたり、訴えない方には配慮してる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野を活かしながら支援している。(調理、洗濯たたみ、皿拭き、お茶入れ、テーブル拭き、米運び)又、気晴らしの為ドライブ、白鳥見学、買物等取入れマンネリ化防止に努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、権利擁護の方の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。買物時等は見守りを行いながら自分で払っていた。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の利用者の気分に合わせ、天気の良い日は日光浴、散歩、買物等日々声を掛けながら積極的に行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	訴えのある方には、兄弟の方達の予定を調整し外出できる様、取り組んでいる。又、外泊等希望する方は、なかなか家族の都合等で行けない場合もある為、今後お願いしていきたい。		家族の了解を得られる様な説明をし、帰りたいと訴えのある方は、外出、外泊が可能になる様取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等に電話しやすい雰囲気やダイヤルを回したり介助を行なっている。長年友人と手紙のやりとりをしていた方は、職員と一緒に返事を考えたりしている。ユーキャン等行なっている方は職員と一緒に提出書類を書き郵送している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆっくり居心地良く過ごせる様居室へ案内したり畳スペースを利用して頂いている。訪問時等も決まっていない為、いつでもゆっくり過ごせる様配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居宅、玄関共に鍵はかけていない。階段2箇所は安全面に配慮して鍵をかけているが、エレベーターを利用して頂いている。		階段2箇所の鍵を外すには職員が余裕を持って見守り出来る体勢が必要である。転倒は寝たきりに繋がるため。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等を行い全体を見守りながら把握に努めている。夜間は2時間ごとに巡視を行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ライターや薬品類の誤飲の危険のあるものは、厳重に保管している。針、包丁等の保管も徹底しているが、使いたい時はお出しし自由に使っていただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々ヒヤリハットを記録し、事故に繋がらない様、職員全員で認識を図っている。ヒヤリハットを集計し会議等で話し合いをする場を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほぼ全員の職員が採用後、急命救急法を学んでいる。応急手当や初期対応の訓練は定期的に行っていない。		マニュアル等作成しても実際行なってみないといざという時出来ない為、今後定期的に勉強会を開き全職員が出来るようにしていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者とともに夜間想定と昼想定で避難訓練を行っている。		地域住民の方の協力体制が必要になってくる為、運営推進会議等で協力を呼びかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々のリスク等をしっかり把握し家族に理解して頂きながら、自由に外出したり自由な暮らしを提供していける様努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状態と違う時はバイタル測定し本人の訴えを時間をかけ聞くようにしている。又、記録を残しながら受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録の中にお薬カードを入れて置き各職員が把握に努めている。又、薬袋、薬箱、配薬時3回確認し服用して頂いている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方には、運動、身体を動かす機会を設けたり乳製品を採り入れ下剤を使用しなくても自然排便が出来るように工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアが確実に出来ている。又、夜間義歯装着の方はポリデント消毒も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方は、水分チェック表を記入し1日1,000ml 飲水出来るようにしている。又、毎日食事量もチェックし少なかった方達は捕食等して頂いている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルの作成は出来ている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理後は毎回消毒、ふきん、台拭き等も毎回消毒を行なっている。又、冷蔵庫内もハイター消毒、包丁も1日1回夜間消毒を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板設置し、近隣の方々に気軽に立ち寄って頂ける様、工夫している。利用者の動線等には物を置かないようにしている。又、玄関や2Fのベランダには花等を植え季節感を感じて頂いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考え行なっている。飾りつけ等も季節に合わせて飾り付け等行なっている。ベランダ等にもプランターを置き季節感を感じて頂いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーや居室のソファー等で仲の良い利用者同士でくつろげるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた物等を持ってきて頂きそれぞれの居室がその人らしい生活感が出ている様に思われる。馴染みの物を見る事で安心できる為家族に協力をお願いしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜、外気との換気を行なっている。トイレ等は窓が無い為、換気扇と消臭剤で悪臭が出ない様工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた浴室や脱衣場に手すりを取り付けたり工夫を日々考え行なっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗の原因等を追究し職員で話し合いの場を設け工夫をし混乱や失敗を防げる様にしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチをおいたり利用者が日光浴や花を眺められる様にしている。又、畑スペースもあり自由に活動できる様に取り組んでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の持っている力を最大限に生かし出来る事をどんどん行なって頂き自信につなげています。利用者の方が安心して生活できる様職員は日々利用者の訴えに耳を傾け対応しています。又、外出等取入れA D L維持や気分転換を図っています。処遇方針でもある、その人らしさを大切に心身ともに明るくゆったりとした生活出来る様、日々努めています。